

鹿谷地区 市長と語る会 議事要旨

日 時	令和6年5月24日（金）午後7時00分～午後8時50分
場 所	鹿谷まちづくり会館
出席者	58名

Q：質問 A：回答

1. 移住定住政策について

Q：市のホームページを見ると、定住移住政策として、ふるさと回帰U・Iターンの奨励金事業、移住就職等支援金、就職等奨励金の3つがあるが、どれも東京圏を主にした支援だと見受けられる。東京圏に限らず幅広く事業を進めてほしい。また、市のホームページにある市の紹介動画や市へのアクセス方法について、新幹線のことが反映されていない。移住者・定住者の談話も非常に古い。こういった内容も逐一見直していただきたい、頑張っているということを発信していただきたい。

A：定住移住政策が東京圏を対象にしているのは、県の事業にのっている部分もある。市で進めているところもあるので、担当課に確認する。ホームページについては早急に直したい。

2. 新婚世帯への支援について

Q：新婚世帯への支援について、対象年齢を39歳以下としている根拠は何か。市は不妊治療への支援もしており、今はある程度高齢になっても出産可能だと思う。もう少し弾力的にしたほうが良い。

A：結婚支援の対象年齢を39歳としているのは根拠があるわけではない。市としては全ての事業について一定の年齢制限を設けており、結婚して子どもを設けてほしいという期待から39歳としている。ご意見があったことを持ち帰りたい。

3. 防災拠点としてのまちづくり会館について

Q：まちづくり会館を社会教育からまちづくりや防災の拠点として移行したが、地域担当職員制度は今後も続けていくのか。正規職員を配置すればさらに機能は高まると思う。また、このまちづくり会館を防災拠点として改修するには限界があると思う。例えば小学校をなくすのであれば、まちづくり会館をそちらに移転するなど、慎重に長期的に考えて実施してほしい。改修するとしたら、高齢者や障がい者など、靴を履き替えられない人もいるので、土足で入れるような施設にしてほしい。

A：地域担当職員は続ける。正規職員の配置についてご意見があったことは持ち帰る。土足対応については、これも簡単に答えられないが、高齢化が進む中で必要なことだと認識した。防災拠点とするということは、ハード改修をするわけではない。ICT的な機能を整備し、情報収集を強化したいと考えている。小学校の統合については、まずは地域の声を優先して検討したいので、鹿谷の中で議論していただく上で市の方へ話をいただきたいと思う。

4. 安波賀街道の整備について

Q：安波賀街道の峠道の整備について、福井県知事への最重要要望事項として取り組んでいただきたい。この県道は朝倉氏遺跡と平泉寺をつなぐ由緒ある街道であり、原発事故等の際には鯖江市等からの避難道路として有効であり、人口減少対策上でも市の発展に必要な道である。今年は市制70周年を迎えることから、チャンスの年として取り組みを強化していただきたい。

A：安波賀街道の通行不能区間については市としても県へ要望を続けており、今月予定されている道路整備促進期成同盟会でも要望を行う。また県の土木部長からは、総事業費や福井市との調整などいろんな問題があるが、重く受け止めるという話をいただいている。県としては今は157号線の4車線化に本格的に着工するとのこと。安波賀街道は平泉寺と一乗谷を結ぶ重要な路線であることは認識しており、より現実的な方法を視野に入れ、引き続き県に対して強く要望していきたい。

5. 中学校再編について

Q：議会は中学校を勝山高校の敷地に建設することを認めたが、今後も市民の意見を聞くことは採択された。そうであれば市民の要望に基づいて、再度検討していただきたい。子育て支援だけでは人口減少は止められない。地域から学校が消えることにより、勝山市は衰退に向かっている。勝山高校に併設ではなく、少なくとも中学校を独立させなければ、福井に生徒が流れる、人口減少に拍車がかかるのではないか。

また、学校名のアンケートを学校の中で行うことについては、先生方に対して一切言論を封じるやり方だと思う。小学校の先生や市職員は一切署名をされなかった。本来教育委員会は独自の見解を持つ機関であったはずである。今は行政の追従機関になっている。

A：議会と積み上げてきた、長い時間軸の中で決定してきたプロセスは無視できない。3月議会での予算案や条例の改正案については、議会の中で激しい議論があって承認された。特別委員会で議論を続けていくのが、陳情を受け入れているということ。再度皆さんの声は聞きながら進めていきたい。ただ、開校時期と開校場所、地下横断歩道建設について、白紙撤回をするということは言えない。議決を重く受け止め、建設について皆さんの意見を反映していくことが自分の役目だと思っている。予算をどう反映していくのかは今後も考えていきたい。

6. 勝山高校への進学率について

Q：今年、北部中学校を卒業した生徒がどの程度勝山高校に進学したのか教えてほしい。

A：勝山北部中学校だけの数字は分からないが、市内の中学校から勝山高校に進学したのは約4割。学区制がなくなったこと、私立高校の無償化の影響が大きい。勝山高校の魅力がないわけではないと思っている。

7. 老人会について

Q：社会福祉協議会がどのようなことをしているのか分からない。老人会で社協がサロンをしているが、鹿谷で11の集落があるが実施しているのは4つの集落で、他の集落では老人会がなくなろうとしている。そういったことも考えてほしい。

A：社協は、社会福祉の分野において市の全体を統括している、法律にもとづいた組織である。募金活動をしなが、行政ではカバーできない社会福祉業務を行っている。地区社協は市から助成しながら、10地区に対しコーディネーターをおいて、地域の社会福祉の仕事をしている。サロンや給食サービスが主な仕事である。老人クラブが疲弊化しているのは勝山地区からも聞いている。老人クラブへの補助について、国のルールでは一定数の人数がいないと補助できなかったが、今年度からルールを大幅に改定して市から補助できるようにしている。現在老人クラブが活動しやすいスキームを作っている。社会教育団体と違い、老人会に対しては、自主独立への育成ではなくバックアップするように言っている。地区社協とまちづくり会館の活動がかぶっているところがあるので、連合会と協議しながら整理していきたい。

8. 地区社協の会計について

Q：地区社協の会計はどうなっているのか教えてほしい。

A：収支の数字は持ち合わせていないのでお答えできない。

9. 勝山高校の魅力化について

Q：勝山高校を県立大学の付属校にならないか。魅力を考慮して恐竜化を進めて中学校と連携すると良いのではないか。

A：恐竜学研究所とは何度も打合せしている。その中で、勝山高校との連携は大きな課題として受け止めている。学科のコースとして検討しているそうなので期待したい。また、来年度以降、市では全国から恐竜好きな子供を集めることを計画している。勝山を恐竜少年、少女のメッカにしていきたい。

10. コンベンションホールの建設について

Q：恐竜博物館は世界的な博物館だと思うが、全国大会を開催できるようなコンベンションホール建設の計画はないのか。

A：コンベンションホールについては新たに建設予定はない。ジオアリーナをコンベンション開催機能も考慮して建設したので、今後活用も考えていきたい。

11. まちなか誘客について

Q：恐竜博物館の敷地にホテルや大学も一緒に建設されると思うが、恐竜を目当てにした観光客が長尾山だけで過ごすのではなく、市内全体を回ってもらえるような構想はないのか。例えば中部中学校の跡地に大学を建設して、観光客も見学できるようにして、市街地を歩いてもらえるような仕組みを作ってはどうか。

A：恐竜博物館に隣接できるから恐竜学部を誘致できた。長尾山公園内に大学とホテルの建設をすることは決定事項である。ホテルの建設は市内のいくつかに誘致をしているが、長尾山に集中すると市内に人が流れないことは課題である。まちなか誘客については長年模索している。努力はしているが、実際は博物館が中心になっている。勝山の事業所が収益を上げるために、ジオターミナルや道の駅で収益を上げる仕組みにしている。飲食の面ではまちなか誘客は成功している。市には他にも観光地はあるのでそういった魅力も発信していきたい。

12. 勝山インターについて

Q：福井駅は恐竜がたくさんあって賑やかだが、勝山インターは恐竜が少なくて寂しい。インター線をわくわくするような構想はないのか。

A：大型の恐竜モニュメントがたくさんあるから良いということではないと思っているが、勝山インターが寂しいという声があったことは持ち帰りたいと思う。

13. 学生の居住について

Q：県立大学の学生や職員による活性化が重要だと思う。永平寺のアパートから車で通って帰るのでは、勝山は活性化しないと思う。学生のまちとして発展するために、学生も勝山で生活していくことを市としても推進してほしい。

A：大学生は約100名が勝山に来て、職員も同数くらいと聞いている。市では学生向けのアパートを建設する人に対して補助を出している。また、入居する学生に対しても助成を考えている。学生の募集にあわせて大学準備室と一緒に進めているところである。

14. こども会館の整備について

Q：こども会館の整備は令和8年度ですること間違いはないか。

A：県の屋内遊技場の補助金が令和８年度までなので、その最終年度までには実施したいと思っている。他の大きな事業があるので、全体のバランスを考えて令和８年度に向けて準備している。

15. 市長と語る会での意見について

Q：市長と語る会は非常に良いと思っている。皆さんの貴重な意見も聞けていい勉強になった。そして、今回の答弁の中で、持ち帰った事案については途中報告をしてほしい。着地点も教えてほしい。聞いて終わりではなく、議論しているので成果がほしい。

A：いただいた意見によっては担当課と協議したり、市議会と議論しないと答えできないことがある。すぐにお答えできないこともあるが、全て答えていきたい。数字等については追加で回答し、それ以外のことについては、こういった機会でも報告したい。